

芭蕉の俳句の翻訳について

Ts・朝魯門（内モンゴル師範大学教授）

松尾芭蕉（1644-1694）という世界的に有名な偉大な俳人の作品が翻訳され、関心のあるモンゴル人読者に提供されることとなった。

本書は日本のひとりの俳人の俳句を中国でモンゴル語に翻訳し出版した初めての作品集である。

まず本書の最初に「芭蕉の文学あるいは俳句について」という序文を書き、俳句についてモンゴル人読者に紹介するとともに、跋文にかえて松尾芭蕉の略歴を付記したことによって、本書は松尾芭蕉の作品の翻訳であるばかりでなく、日本の俳句の歴史とそのグローバル化について理解するのに適した意義のある成果とも言えよう。

1. 翻訳の準備：松尾芭蕉の俳句を翻訳する前に、モンゴル語への翻訳状況やモンゴルに与えた影響の面について研究調査した。モンゴル人の中で日本の俳句を最初にモンゴル語に翻訳し研究した、そして実験的に書いた人物は B.ヤボーホランである。彼は 1963 年にロシア語から数句の俳句をモンゴル語に翻訳し、1964 年に「日本の俳句について」という論説を書いた。1968 年に「日本の俳句風に書いた四季の詩」を『文芸のつどい』誌に初めて発表した。彼は「日本の俳句形式の詩について」¹という論説で日本の俳句の由来、特徴などを簡潔に紹介し、「日本の俳句を創作したのは日本の〔古典的な〕韻文家の芭蕉であった。日本の韻文の歴史において『芭蕉派』すなわち自身の作風にしがう数多くの韻文家を生み出したこの人物は、1644 年から 1694 年までその生涯を送った。芭蕉は俳句形式の韻文の専門的な師匠であり、日本の韻文において俳句形式の詩をその発展の最高段階にまで高めた。それゆえ、松尾芭蕉という名前はほとんど日本韻文と同義であると理解されるようになり、彼の「古池」という俳句は、その誕生した時から日本韻文の『模範詩』となった」と記している。これは要するに芭蕉に対するモンゴル人の最初の評価と言えよう。

しかしながらその一方で、日本の俳句の影響はサイチンガが最初に受容したのかもしれないという推測も導き出されている。私自身も「日本モンゴル俳句交流小史」²という小論を書き、サイチンガの詩に俳句の影響がある可能性について述べている。そして、2012 年にウランバートルで開催された「モンゴル文化の今日と未来」という国際学術会議でこの小論をかなり詳細に書き直した研究発表を行い、サイチンガの詩「山寺という山で」における

¹ Б.Явуухулан, “Японы хайкү хэлбэрийн шүлгийн тухай”, *Японы яруу найраг* (“Дэлхийн шилдэг яруу найраг” цуврал [Ерөнхий редактор Г.Мэнд-Ооёо]-ын III боть, “МӨНХИЙН ҮСЭГ” хэвлэлийн газар, Улаанбаатар, 2005) хэмээх номын 15-20 дугаар талаас дам ишлэв. / В.Яボーホラン 「日本の俳句形式の詩について」『日本の詩歌』(『世界の詩歌精選』叢書 [編集長 G.メンドオーヨー] の第 3 巻、「ムンヒーシ・ウセグ」出版社、ウランバートル、2005 年) という書籍の 15-20 ページから間接引用した。

² Ts.ツォルモン「日本モンゴル俳句交流小史」『世界俳句』、夏石番矢・世界俳句協会編、第 6 号、七月堂、東京、2010 年。〔掲載頁数不明—訳者〕

「綺麗に彫刻された石〔も詩をささやく〕³という行は、山寺〔立石寺^{りっしやくじ}〕における芭蕉の「閑さや岩にしみ入る蟬の声（しずかさや いわにしみいる せみのこえ）」〔という俳句〕に言及したものだという見解を述べた。

2. 俳句と俳句文化についての研究：文学の翻訳は文化の翻訳である。したがって、俳句の翻訳には「俳句文化」すなわち日本の古い歴史と文化、地理、動植物、日本の古い文学、俳句の「季語」などに関する複雑な知識が要求される。たとえば、俳句にはきわめて多くの花の名称が登場するが、それらはひとつひとつ当該の季節を象徴するイメージを形成しているということを区別して理解しなければならない。そのような俳句と芭蕉について相当数の書籍を収集して研究を行った。

3. 俳句の翻訳の過程で生まれた具体的な課題と工夫：古い日本語の古典俳句の五・七・五という行の音節文字〔ひらがな〕の数的制約にしたがって、モンゴル語の音節数を合わせて翻訳すると、生き生きとした詩的な作品性が失われると言われている。したがって、語の音節数が少ない精練された語を選択する手法を取った。しかしながら、一行で書くのが日本の伝統的な慣例ではあるが、韻律にしたがい三行にわたって翻訳した。その一方で、俳句の眼目となる語を合理的に選択するのが最も重要な仕事だった。ある語については必ず該当する語に翻訳しなければならない場合もあれば、ある語についてはモンゴル人の美的共感を覚える心理に寄り添って翻訳しなければならない場合もあった。いくつかの特別な名詞は明確に翻訳するのが重要だった。たとえば、日本語で「花」と言えば「桜」を指す。これを「桜」と明示的に訳さずに、ただ「花」とだけ訳せば、明確な理解を得ることはできない。

総じて、日本の文化と思想に基づいた文化の意味とイメージ、そして偉大な俳人の研ぎ澄まされた語句、卓越した思考、驚嘆すべき技巧、深遠なる想念を歪曲しないよう尽力するとともに、モンゴル人読者の美的共感を呼び起こすまで、その詩的な遺伝子を頼りにモンゴル化するよう努力した。

偉大なる俳人の精練された語句、卓越した思考、驚嘆すべき技巧、深遠なる想念をできるかぎり損なわないよう尽力するとともに、母語であるモンゴル語に可能なかぎり多く移し替えられるよう努力した。

³ 都馬バイカル『サイチング研究—内モンゴル現代文学の礎を築いた詩人・教育者・翻訳家』、論創社、東京、2018年、43頁。〔訳者の注記〕